

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600337		
法人名	社会福祉法人 栄幸会		
事業所名	きたうえファミリー		
所在地	静岡県三島市徳倉1148-2		
自己評価作成日	平成22年12月26日	評価結果市町村受理日	平成23年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600337&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600337&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年2月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の天井まで吹き抜けの60畳のフロアは日の光や爽やかな空気が流れ、畳コーナーやソファなど利用者様は思い思いの場所で自由にくつろぎ過ごされ、笑い声がきかれます。各居室にはトイレ・浴室・洗面所が整備され、他の方への気兼ねが無くプライバシーが保たれています。

社会福祉法人栄幸会の下、併設の特別養護老人ホーム・デイサービス・他、他部署とのレクレーションや行事・クラブ活動を通じて利用者様同士の交流があります。

理念である「お一人おひとりを尊重した介護」にそって利用者様が楽しく元気で過ごされるよう全職員が統一した介護にあたっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三島市郊外の山あいにも明るく広々として清潔な施設環境が整えられ、管理者と職員が一体となって利用者の明るく元気な暮らしを支えているホームである。地区大掃除に利用者と一緒に参加し地域との交流を深め、定期的に運営推進会議が開催され家族や地域関係者との意見交換も活発に行われている。家族との話し合いや担当職員を中心に利用者の状態に合わせた介護計画を作成、毎月モニタリングシートでケアの実施を確認する仕組みが作られている。終末期対応も基本指針やマニュアル、家族アンケート、同意書確認、偲びのカンファレンス等が整備され全職員で取り組んでいる。食事の時の利用者の楽しそうな会話や明るく元気な表情がホーム運営の実績を物語っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念の持つ意味を良く理解しており、日々のサービス提供の場においても理念の共有化とその実践が見られる。	ホーム理念「一人ひとりの人格を尊重した介護」の実現に向け、利用者個々に出来ることを大事にしたケアの実践を職員全体で取り組んでいる。	年度目標も定められているので、更なる取り組みとして自己評価等を活用し、理念や目標達成へ向けた具体的な課題等に取り組む活動が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中でのボランティア様との交流・散歩・買い物時のふれあいや声かけが自然に行っている。ご近所の方の継続したボランティアのお手伝いがある。地区大掃除には利用者様とともに参加。	地域ボランティアとの交流やホーム行事(納涼祭やクリスマス会等)への参加呼びかけ、地区大掃除参加、敬老会や保育園訪問など地域との活発な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の「認知症家族を支える会」に相談員として参加認知症サポーター養成員として行政と連絡を取り合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第一水曜日と決めて開催利用者様・施設・職員等現況報告また役員等からの貴重な意見など議題上で上がった内容は議事録で揚げ全職員へ報告統一し実行につなげている。	開催日が年間に定められ、2ヶ月毎に定期開催され、利用者や家族、地域・行政関係者等の参加の下で状況報告、意見交換が行われホーム運営に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者へ毎月のお便りを持参しながら顔を出している。市内グループホーム部会でも意見交換や交流等に担当者とともに定期的に行っている。行政からの部会には積極的に参加、些細なことでも気軽に相談に乗って頂いている。	ホーム便りや書類等を持参しながら関係作りを行い、介護相談員受け入れや、福祉ふれあい祭り参加など行政との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止ゼロを宣言、全職員周知徹底。問題になるようなことに対してはただちに職員間で話し合い対応している。法人として拘束委員会を設けている。	玄関の開錠、身体拘束「0」宣言、法人全体での拘束廃止委員会等も開催され法人・ホーム・職員が一体になって取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修に参加、勉強会を開催職員間で周知徹底。職員間で相互理解に努め声を出し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修や勉強会に参加している。すでに利用されていたご家族もいました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時文書にてお知らせご家族様から承諾書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催、施設側・家族側からお互いに屈託のない意見を出し合っている。4者面談を開催職員・家族相互の隔たりを無くすよう話し合い、内容は全職員間が周知徹底している。	運営推進会議での話し合いや来訪時の面談、家族会、本人・家族・職員面談会議等や毎月のホーム便りなどを通して意見交換、要望等を聞く機会を設けホーム運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、日に何度となく顔を出している。利用者様・職員とも積極的に会話をしている。	毎月のホーム会議、日々のミーティング、代表者との会話などを通して職員間のコミュニケーションを図りホーム運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人をしっかりと把握している。日頃の職員との会話からも不安の解消に協力を惜しまない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制に影響のない範囲で内部・外部研修には積極的に参加をしている。法人内には各委員会を創設参加委員から全職員へと伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市グループホーム研修会が3か月毎に開催、意見交換や勉強会を開き相互の向上に努めている。積極的に外部研修参加を申し込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の成果圧の中での小さな変化を見逃さずに察知利用者様が安心して生活できるように職員間で話し合い申し送りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面接・入居時・面会時・面談等ご家族との会話に努め、全職員へ伝達している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様の要望・意見をしっかりと聞き入れ職員間で話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人一人が出来る事をしっかりと見極め職員は周知、ともに寄り添い本人の出来る事を一緒にして行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には些細なことでもお知らせ、ご家族の協力の下、利用者様が安心して生活できるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力の下、利用者様が安心して生きいきと生活できるように面会・外出・外泊をしていただいている。利用者様の希望がかなえられる様職員は務めている。	知人や友人等の来訪支援や、家族の協力を得て墓参りや個人外出、教会ミサ参加等の支援を通じて馴染みの関係維持に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に利用者様の状態・表情に目を向け、利用者様同士の衝突・孤立の無いように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご家族様と連絡を取り合い、暑中見舞い・年賀状を出して近況を聞いており、相談にも乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や意向を大切に、ご家族と連絡を取り合いながら添えるよう配慮している。	利用者毎の担当者を決め、ホーム独自のモニタリング票を毎月作成することにより、利用者への理解を深めている。また日常生活支援から利用者への意向や希望を把握し、本人本位のサービスとなるよう検討を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や利用者様の希望・ご家族からの情報をもとにできる限り添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の利用者様の状態をしっかりと把握、またその日の体調や様子をしっかりと観察、申し送りをし全職員が問題点を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の希望や意向を大切に、ご家族と連絡を取り合いながら添えるよう配慮している。	介護計画は、家族との話し合いや毎月のカンファレンスを通じて職員全員でよく検討されており、常に現状に即した計画となっている。定期更新以外にも利用者の変化に合わせて的確に更新されており、家族の同意も得られている。	担当職員によるモニタリングシートが作られているので、利用者毎に毎月のカンファレンスに基づいた職員間の周知、共有の取り組みが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者様の些細な状態変化を見逃さず、記録・申し送りをし全職員が共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定概念することなく、その時々状態に合わせた介護に取り組み職員間の申し送りをしっかりとしながら共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれのボランティア様が他の協力を得ながら利用者さまが楽しく生き生きと生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら本人かかりつけ医を受診。施設提携医は毎月2回往診、24時間対応の医療支援を得ている。	かかりつけ医の選択は利用者や家族の希望に合わせており、家族での受診が困難であれば、ホームの職員が緊急対応している。ホームの提携医は月2回の訪問診療を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在であるが併設の看護師と常に相談・アドバイスを得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、こまめに病院面会をしながら早期退院に向け、担当医師や看護師と連携を取りながら退院後の生活がスムーズにいかれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族から終末ケアに関するアンケートを取っている。重度化した時点においても再度ご家族(本人)の意向を尊重添えるようにする。施設にて看取りを希望されたら主治医との承諾書をかわし、併設看護師の協力の下全職員にて取り組んでいく。	重度化や終末期に向け、終末期対応マニュアルや看取り介護計画書が作成され、対応できる体制が整っている。身元引受人以外に、兄弟等の承諾書も取り交わしている。「偲びのカンファレンス」等、独自の取り組みが構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修・内部研修を定期的実施勉強会をしている。消防署による普通救命講座Ⅰを全職員取得。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施。年2回の施設全体での防災訓練ほか防災プロジェクト委員による勉強会・訓練を不定期に実施しているが近隣との協力は計画中である。	施設全体で消防署の指導の下、防災訓練を年2回実施している。また独自に夜間を含め、防災訓練を毎月実施している。緊急時の食料や飲料水の備蓄も十分に確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に添った介護やプライバシーを尊重できるように勉強会を実施、職員間で注意し合うようにしている。	家族より生活暦の聞き取りや、日常の会話から利用者の情報入手し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。洗面所も共用部には設置せず、随所に細かな配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活から利用者様の状態を重視、一人一人に合わせた介護を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事以外はその日の利用者様の状態を重視、利用者様がたに合わせた介護を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみやおしゃれの大切さを強調、衣服のコーディネーターや化粧・口臭等利用者様と一緒にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来る手伝いをさせていただいている。四季の行事や食材を大事にしながら利用者様と一緒に考え作っている。食事中も会話が弾み楽しく食べている。	食卓は半円形の配置になっていて全員が顔を見合える。食事をしながらの会話が進み楽しいひと時となっている。後片付けや洗浄、食器拭きは利用者と職員が共同で実施しており、利用者の楽しそうな笑顔が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・形態を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・イブニング時・モーニング時の口腔ケアの実施。利用者様全員歯磨きと口腔洗浄液を使用し口腔内の殺菌をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にはトイレが整備されている為プライバシーが保たれている。排泄委員の下利用者様一人一人に合わせた排泄用品・パターンを決めている。	排泄チェック表を利用して排泄のパターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるよう努めている。また、排泄委員の指導により、各人に合わせた排泄用品を選択し、排泄の自立に向けた支援が展開されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューの創意工夫(野菜類・乳製品他)。各居室にトイレが整備されている為、気兼ねをすることが無い。排泄意識の無い方は排泄表の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の居室での入浴なので利用者様に合わせた入浴時間で行っていただける。利用者様に合わせた介助・見守りを行っている。	各居室に浴槽が設置されているため、入浴は週2回程度を目安にしているが、毎日でも何時でも利用できる。利用者の状態に合わせた介助、見守りを実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態・気分に応じて休憩できるよう介助・見守りを行っている。座布団・ひざかけなど自由に使用できるよう置いてある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人の服薬を把握している。薬の変更時は全職員が周知徹底するよう連絡申し送りを繰り返している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当職員は一人一人の希望を聞きながらご家族了解の下外出・外泊を計画実行している。食べ物の持ち込みは食べられる範囲と職員への声かけで楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの全員参加の行事のほか一人一人に添った希望の個人外出や外食を担当職員はその都度計画実行している。	日常のごみ出しは、散歩も兼ね全員で実施している。家庭菜園もあり、収穫を全員で楽しんでいる。思い出の場所等への希望は、遠足で実施している。季節ごとの行事や外食の機会も提供している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は利用者様・ご家族の責任のもと所持していただいている。買い物については事前にご家族に了解を得、施設建て替えにて利用者様に自由に買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設施設に公衆電話が設置自由に使用できる。利用者様自筆の絵手紙を定期的に家族や知人に出している。手紙・はがきは自由に投函できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天井が高くて広い。フロアには一人一人のアルバムや行事日々の写真を掲示してある。利用者様は思い思いの場所で(畳・ソファー他)で過ごしている。天井までの開け放した窓からは自然あふれる木々や小鳥のさえずりが一年を通し聞こえている。	ホールを取り巻く壁面には利用者が作成した習字やお茶会、初詣等の写真が多く展示されている。また共用空間には畳が敷かれ、こたつが設置されており、利用者が自然に集う居心地の良い空間となるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室はもちろんフロア内において利用者様はそれぞれ好きな場所(こたつ・ソファー・畳他)でくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内は利用者様とご家族に任せ、生活の場と安らぎのある空間となるようお願いしている。(テレビ・仏壇・ソファー・棚他)	各居室の浴室はきれいで広く、自立への配慮や介助にも対応できる設備となっている。トイレもゆったりとしていて、清潔に保たれている。利用者は使い慣れた家具や日用品を自宅から持ち込んでおり、その人らしい生活を楽している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人一人が出来ることを把握、また決めつけること無く本人の意思を尊重して行動していただき、職員は見守り一緒に行動しサポートしながら援助している。		